



町田ゆかりの児童文学作家紹介

# 三田村信行 さん

町田市に住んでいる児童文学作家・三田村信行さんの本を紹介します。文学館や図書館で閲覧・貸出できます。ぜひ手に取ってみてください。

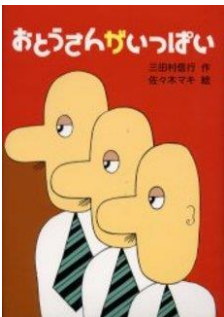
## 作家紹介

1939年、東京都生まれ。早稲田大学在学中に早大童話会に入会し、創作を始める。卒業後は出版社への転職を繰り返しながら創作活動を続け、1970年に『遠くまでゆく日』でデビュー。ミステリーやファンタジー、歴史小説や時代小説、ノンフィクションなど、幅広いジャンルの児童文学作品を手がけており、中でも1998年から続く「キャベたまたんてい」シリーズは人気作となっている。2009年に長年にわたる創作活動に対して第32回巖谷小波文芸賞、2010年に『風の陰陽師』で第50回日本児童文学者協会賞を受賞。

## 作品紹介

### 短編集

『おとうさんがいっぱい』／絵・佐々木マキ(1975年 理論社)



ある日おとうさんが3人に増えてしまい、その中から一人を選ばないといけなくなるという表題作のほか、4つの短編を収録。どの作品においても主人公は突然、奇妙な非日常の状況に投げ込まれる。日常や自分の存在の不確かさへの不安を描いた児童文学として高い評価を得て、現在まで読み継がれている名作。



『オオカミのゆめぼくのゆめ』／絵・佐々木マキ  
(1988年 ほるぷ出版)

男の子になったゆめを見ている「オオカミのゆめ」と、オオカミになったゆめを見ている「ぼくのゆめ」の章が交互に構成されている。終章の「オオカミのゆめーぼくのゆめ」で二つのゆめの世界がつながり、オオカミとぼくの意識が入れ替わったままの状態が目が覚めて…。表題作のほか、4作を収録した短編集。三田村さんはオオカミが登場する作品を多く描いているが、本作でのオオカミは、恐怖と迫害の対象であり、孤独な存在として描かれている。

『ドアの向こうの秘密』／絵・古味正康  
(1988年 偕成社)

「ドアは開いていた。」という同じ一文から始まる、5つの短編を収録。いつものように学校から帰ると、いつの間にか別の世界に入り込んでしまっていて…。スティーブン・キング『呪われた町』中の「人間のあらゆる恐怖の根源だ、と彼は思った。しめたはずのドアがわずかにあいている」という文章から着想したという。





## 『ダンス男がやってくる』／絵・いそけんじ

(1996年 PHP 研究所)

となりの家に引っ越してきたのが人間のふりをして生きている恐竜だと気づきながら、「ぼくが人間であることも、ほんとうのところは不確かなことであって、もしかしたらほかの人の目にはぼくはオオカミかキツネに見えるかもしれない」と考えて、彼らを温かく見守る「となりの恐竜」など、表題作のほか6作品を収録した短編集。



## 『もしもしきつねくまぞうです』／絵・佐野洋子(1983年 偕成社)

◆あらすじ◆ 童話作家の「わたし」のところに、背広を着た行儀のいいきつねがやって来て、自作の童話の批評を求めてきた。くまぞうという名前のきつねは、昼間は人間に化けて市役所に勤めているという。「わたし」は、ほかの人でも書けるようなものではなく、人間社会に紛れ込んで生きるきつねの気持ちを表現した「きみだけにしか書けないどうわ」を書くようにアドバイスする。



「わたし」が批評をするごとに、きつねの童話は「自分のほんとうの気持ち」が強く表れたものに変化していき、それが自分の生き方そのものを変える決意につながっていく。



## 『ぼくが恐竜だったころ』／絵・佐々木マキ

(1989年 ほるぷ出版)

◆あらすじ◆ 恐竜展でなぞの古生物学者に声をかけられた「ぼく」は、＜恐竜変身剤＞でテスケロサウルスの姿になり、タイムマシンで6500万年前にワープして、恐竜絶滅の真相をレポートすることになる。数日間恐竜社会で暮らし、元の世界に戻って報告するということを繰り返していく中で、「ぼく」は利権に

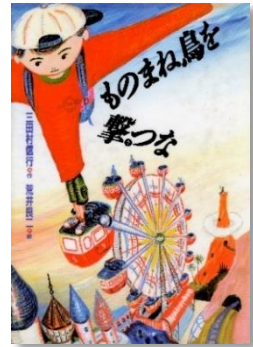
まみれた大人たちのエゴや、自分自身の身勝手さに気づいていく。

第37回産経児童出版文化賞推薦作品。

## 『ものまね鳥を撃つな』／絵・荒井良二

(1995年 ほるぷ出版)

◆あらすじ◆ 俊男のところに、行く当てがなく途方に暮れた、遠い親戚の坂本さんが転がり込んできた。坂本さんは不器用で融通がきかず何をやってもうまくいかないが、周囲の応援もあって新聞配達をしながらプロボクサーを目指し始めた。俊男は正幸たちと後援会を作って無邪気に楽しんでいたら、坂本さんのある秘密を知ってから、「KKK」という謎の団体に追われることになって…。



1973年に書き上げられた三田村さんにとって初めての長編作品で、二度の書き直しを経てようやく出版された。「空を飛べたら」という誰もが考えたことのある空想が叶えられたとき、大人たちから思いもしなかった圧力がかけられます。読み進めるうちに、俊男たちが感じるスリルや息苦しさに飲み込まれていき、疾走感のある終盤は手に汗握る展開となっている。第43回産経児童出版文化賞推薦作品。



## 『ふたリユースケ』／絵・大沢幸子

(2017年 理論社)

◆あらすじ◆ 小川ユースケは、お父さんの仕事の都合で5年生の8月に須留目という田舎町に引っ越すことになった。そこでユースケは、2年前に死んでしまった町の神童・大川ユースケにそっくりだということで、彼の「生まれ変わり」扱いされ始める。どこに行っても「ユースケさんはそんなこといわなかった」

「ユースケさんはそんなことしなかった」と言われてうんざりしていると、町の有力者である大川ユースケの祖父から、ある提案をされて…。ユースケは、須留目の上の町と下の町の対立に巻き込まれていくうちに、大川ユースケの死の真相を知ることになる。

## 『安寿姫草紙』<sup>ものがたり</sup>／絵・romiy (2017年 ポプラ社)

◆あらすじ◆ 安寿は、陸奥国岩木六郡をおさめる父とやさしい母、素直で愛らしい弟の厨子王とともに幸せに暮らしていた。しかし、ある日父が無実の罪をきせられ流罪となった。安寿たちは父に会うために旅に出るが、人買いにたぶらかされて売られ、母と生き別れになってしまう。安寿と厨子王は丹波国の酷薄非道な領主・山椒太夫のもとで、下人として過酷な労働を強いられることになる。母を捜し出し、父の消息を探るため、安寿は厨子王をそこから逃がすが、そのために拷問を受け……。



中世に成立した説教節「山椒太夫」を下敷きにしながら、細部を想像力豊かにふくらませた長編物語。家族を想う安寿の複雑な内面が幼年期から丁寧に描かれており、弟のために身を懸けて尽くす姿が立体感を持って迫ってくる。姉弟の狼のエピソードや後半のオリジナルの展開に、説教節や森鷗外の『山椒大夫』とは異なる三田村作品らしさが表れている。

●「ネコカブリ小学校」シリーズ／絵・佐々木マキ

(PHP 研究所 全 10 巻)

- 『ねこのネコカブリ小学校』(1981 年)  
『ゆかいなネコカブリ小学校』(1982 年)  
『おかしなネコカブリ小学校』(1983 年)  
『ネコカブリ小学校校長先生危機いっぱつ!』(1984 年)  
『大さわぎネコカブリ小学校』(1987 年)  
『ネコカブリ小学校校長先生まぼろしの名画事件』(1997 年)  
『ネコカブリ小学校校長先生ご先祖さま大ピンチ』(1997 年)  
『ネコカブリ小学校校長先生恐竜島のぼうけん』(1997 年)  
『ネコカブリ小学校校長先生そこなし森のひみつ』(1998 年)  
『ネコカブリ小学校校長先生ミラ男ののろい』(1998 年)



「先生みたいな存在をちょっとからかってやろうかな」という気持ちで書き始められた、ユーモラスなねこの校長先生が主人公のシリーズ。タイトルに「校長先生」が入っているものは長編、ほかは短編集。

●「ウルフ探偵」シリーズ／絵・黒岩明人 (偕成社 全 5 巻)

1. 『ウルフ探偵のおかしな事件』(1982 年)
2. 『ウルフ探偵とまぬけな死神事件』(1984 年)
3. 『ウルフ探偵とぬすまれたタイムマシン事件』(1985 年)
4. 『なぞの密室事件』(1986 年)
5. 『地獄の使者事件』(1987 年)

殺人事件を解決したり、トリックを見破ったりすることがない、ハードボイルド系探偵物語。オオカミという正体を隠して探偵をしているウルフ探偵のもとには、SL が道路を走っているのを見たとか、人形が誘拐されたといった、どうにも説明できないおかしな事件ばかりが舞い込む。1～3 巻は短編集、4・5 巻は長編。

● 「キャベたまたんてい」シリーズ／絵・宮本えつよし  
 (金の星社 既刊 20 巻)



1. 『なぞのゆうかいじけん』(1998 年)
2. 『空とぶハンバーガーじけん』(2001 年)
3. 『ぎょうれつラーメンのひみつ』(2001 年)
4. 『しにがみのショートケーキ』(2002 年)
5. 『びっくりかいてんずし』(2003 年)
6. 『かいとうセロリとうじょう』(2004 年)
7. 『ピラミッドのなぞ』(2005 年)
8. 『100 おく円のたからさがし』(2006 年)
9. 『ハラハラさばくの大レース』(2007 年)
10. 『きえたキャベたまひめのひみつ』(2008 年)
11. 『タコヤキオリンピック』(2009 年)
12. 『ほねほねきょうりゅうのなぞ』(2010 年)
13. 『ミステリーれっしやをおえ！』(2011 年)
14. 『ゆうれいかいぞくの地図』(2012 年)
15. 『きけんなドラゴンたいじ』(2013 年)
16. 『きょうふのおばけやしき』(2014 年)
17. 『ちんぼつ船のひみつ』(2015 年)
18. 『からくりになんじゃやしきのなぞ』(2016 年)
19. 『きょうりゅう島でききいっぱつ』(2017 年)
20. 『大ピンチ！ミクロのぼうけん』(2018 年)



キャベたまたんていが、助手のトマトちゃんとじゃがバタくん、ダイコンけいぶ、発明品で手助けをしてくれるカボチャはかせと協力して、事件を解決していく大人気シリーズ。全ページに挿絵が描かれているので、絵も楽しみながらおはなしを読み進められる。

## ●「キツネのかぎや」シリーズ／絵・夏目尚吾

(あかね書房 全10巻)

1. 『かいぞくのおたから』(2002年)
2. 『ライオンの金庫』(2002年)
3. 『ゆうれいのつぼ』(2002年)
4. 『だるまさんのおへそ』(2003年)
5. 『白ワシのかんむり』(2003年)
6. 『吸血鬼のかんおけ』(2004年)
7. 『地獄のえんま帳』(2005年)
8. 『透明人間のわな』(2005年)
9. 『カッパの秘宝』(2006年)
10. 『悪魔の赤ワイン』(2006年)



「なんでもあけます」とうたう仕事熱心なキツネのかぎやのところに、いわく付きのかぎを開けてほしいという依頼が舞い込む。様々な事件に巻き込まれることになってしまうが、キツネが開けるかぎが、事件解決のかぎになっている。シリーズを通して描かれるヒョウ警部との友情もみどころ。

## ●「風の陰陽師」シリーズ／絵・二星天

(ポプラ社 全4巻)

1. 『きつね童子』(2007年)
2. 『ねむり姫』(2007年)
3. 『うろつき鬼』(2008年)
4. 『さすらい風』(2009年)

◆あらすじ◆ 平安時代に実在した陰陽師・安倍清明を主人公とし、『今昔物語集』などの説話を取り込みながら創作した時代小説。きつねの子として生まれた清明が、師匠や友人、ライバルとの出会いを経て陰陽師として成長していく。



歴史年表を見ていて清明と平将門が同時代に生きていた事に気づき、二人が出会ったとしたら面白いと思ったのが、創作の出発点となったという。第50回日本児童文学者協会賞受賞作。



● 「妖怪道中膝栗毛」シリーズ／絵・十々夜  
(あかね書房 全7巻)

1. 『旅のはじまりはタイムスリップ』(2011年)
2. 『よろずトラブル妖怪におまかせ』(2011年)
3. 『旅はみちづれ地獄ツアー』(2012年)
4. 『船で空飛ぶ妖怪クルーズ』(2012年)
5. 『夜の迷路で 妖怪パニック』(2013年)
6. 『時空をこえて 魔鏡マジック』(2014年)
7. 『旅の終わりは 妖怪ワールド』(2014年)



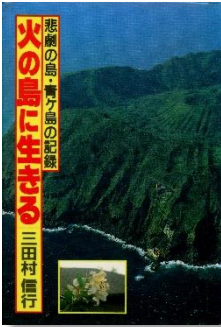
◆あらすじ◆ 2100年に昔の妖怪が復活した事件がきっかけで、時間局時代管理部過去課妖怪分室がもうけられた。10年後、妖怪分室は妖怪たちの親玉である山本五郎左衛門を捕獲するも、まんまと逃げられてしまう。妖怪ゲームの達人・蒼一は、夏実と信夫と江戸時代にタイムスリップして、山本五郎左衛門を探すよう依頼される。3人は東海道五十三次を旅し、ろくろっ首や河童、海坊主など多種多様な妖怪に出くわしながらも、協力してピンチを乗り越える。起きた出来事を時空ケータイで現代に報告していたが、蒼一はだんだん、ある違和感を抱き始め…。

● 「妖怪道中三国志」シリーズ／絵・十々夜  
(あかね書房 全5巻)

1. 『奪われた予言書』(2015年)
2. 『壁画にひそむ罫』(2016年)
3. 『孔明 vs 妖怪孔明』(2016年)
4. 『幻影の町から大脱出』(2017年)
5. 『炎の風吹け 妖怪大戦』(2017年)



◆あらすじ◆ 「妖怪道中膝栗毛」シリーズの続編。信夫のおじいちゃん・佐川博士の発見した予言書「幻書三国志」が妖怪に奪われた。三国時代からやってきた妖怪が、予言書を使って「赤壁の戦い」を起こらないようにしようと目論んでいたのだ。歴史を守るため、蒼一、夏実、信夫の3人は三国時代へタイムスリップ。孔明と張飛とともに、次々と現れる妖怪と戦いながら旅を続け……。

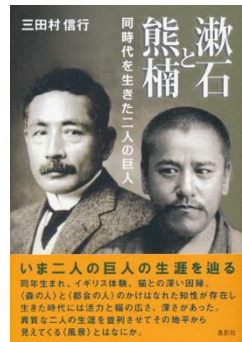


### 『火の島に生きる』(1987年 偕成社)

1780年の大噴火で島外に避難した青ヶ島(伊豆諸島で最も南にある有人島)の人々が、約50年をかけて、故郷に戻って復興を成し遂げた史実に基づくノンフィクション。復興の過程であきらめや弱気、裏切りなどを経験しながら、それを克服した人々の、「あえてこわんねえ」「我でこそあれ」の精神が作品を通して伝わってくる。

### 『漱石と熊楠 同時代を生きた二人の巨人』 (2019年 鳥影社)

全く異なる分野で活躍した夏目漱石と南方熊楠が同年生まれで、正岡子規などの共通の知人がいること、落第やイギリスでの勉学が大きな影響を与えたことなどの共通点があるのに着目して、二人の生涯を比べながら辿っていく構成の伝記。この二人に関する子ども向けの伝記をそれぞれ書いて以降、彼らの共通点に関心を持ち、資料を集めて書き継いできたという。なお、子ども向けの伝記は以下の2冊。



- ・ 『夏目漱石』「伝記 世界を変えた人々」シリーズ 20巻 (1994年 偕成社)
- ・ 『自由のたびびと南方熊楠』(1992年 PHP 研究所)

読んでみたい本があったときや、ここにのっていない三田村さんの本について知りたいときには、文学館や図書館カウンターの職員にお声がけください。



